

北星学園大学講座「メディアと社会」 “ドラマ”は社会と時代を映す鏡 星悠平プロデューサーが講義

2025年4月25日（金）

4月25日（金）、北星学園大学の「メディアと社会」講座で総合制作部の星悠平部員が「地域のエンターテインメント～ドラマの現場から～」をテーマに講義しました。この講座は朝日新聞社とHTBが連携してジャーナリズムに関する授業を行っているもので、今年で18年目となります。授業では約90名の学生に、企画の考え方やドラマができるまでなどを伝え、3月に放送したHTB制作のドラマ「ススキノ・インターン（第1話）」を実際に視聴してもらいました。その後、学生らに「どんなドラマを作りたいか」を問いかけ、ドラマの社会的意義について議論しました。星部員は「学生にとってテレビは必ずしも日常的な存在ではなく、むしろ過去のメディアと映る面も見受けられました。だからこそ“なぜ、今テレビをつくるのか”という根源的な問いが一層重みを持ちました。メディアの本質やコンテンツの存在意義まで思索を促す貴重な機会になりました。」と話していました。

